（財）大阪府文化財センター調査報告書　第89集

茨木市豊川所在

豊　川　遺　跡

—都市計画道路道祖本摂津北線建設事業に伴う発掘調査報告書—

２００３年２月

財団法人　大阪府文化財センター

全景　　南から

焼土坑１壁　　東から

土層断面　　南から

序　　文

豊川遺跡の発掘調査は、大阪府茨木土木事務所による都市計画道路道祖本摂津北線建設に伴い実施されたものです。当地は、「西国街道」の南側に位置し、段丘崖上に立地しています。

当遺跡については、2002年12月に発掘調査が行われ、その後、遺物整理を行ってきました。

現地調査では、中世以前の掘立柱建物や焼土坑などの遺構が検出されました。また、崖際には、ピット列が検出されています。

遺物としては、わずかですが、須恵器・土師器・瓦器などが出土しています。

西国街道を挟んで北側の丘陵上には、古代から中世にかけての宿久庄西遺跡や庄田遺跡があり、さらに、勝尾寺川北側の丘陵上には、旧石器時代の石器製作跡や古代から中近世にかけての集落跡が展開する粟生間谷遺跡が拡がっています。これらの集落は、丘陵の先端部の傾斜変換点に立地するという共通点があります。

なお、豊川遺跡は今回の調査では小面積に過ぎませんでしたが、西国街道の南側段丘崖上に位置することから、宿久庄西遺跡や庄田遺跡、粟生間谷遺跡などと同様な集落跡が拡がっていた可能性が高いと考えられます。

以上の調査成果を収めた本報告書が、この地域における過去の人々の営みを明らかにする助けとなれば幸いです。

最後に、発掘調査および本報告書作成にあたり、多大なご協力を頂いた大阪府茨木土木事務所、大阪府教育委員会、茨木市教育委員会をはじめとする関係各位に深く感謝するとともに、今後とも当センターへの支援を賜るようお願いいたします。

財団法人　大阪府文化財センター
理事長　水　野　正　好

例　　言

1．本書は、都市計画道路道祖本摂津北線建設事業に伴う豊川遺跡（とよかわいせき）発掘調査報告書である。
2．豊川遺跡は、大阪府茨木市豊川４丁目地内に所在する。
3．発掘調査およびそれに伴う整理事業は、大阪府教育委員会の指導のもと、財団法人大阪府文化財センターが、大阪府茨木土木事務所の委託を受けて実施した。
4．発掘調査は、2002年11月13日から12月25日まで、北部調査事務所所長小野久隆、係長森屋美佐子の指示のもと、技師信田真美世、専門調査員正岡大実がおこなった。
5．引き続き整理事業を、2003年２月28日まで係長森屋美佐子がおこなった。写真は、主査上野貞子が担当した。
6．整理作業には、津田春子、波岸初美、八十千里の参加を得た。
7．本調査に関わる遺物、写真、カラースライド、実測図などは、財団法人大阪府文化財センターにおいて保管している。広く利用されることを希望する。

凡　　例

1．座標は測地成果2000に基づく新基準に依拠した国土座標第Ⅵ座標系に準拠し、記載はすべてｍ単位である。また、方位は座標北である。
2．標高は、東京湾平均海面（Ｔ.Ｐ.）からのプラス値である。
3．土色は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠した。
4．遺跡地図は、大阪府遺跡分布図に準拠した。
5．遺構実測図の縮尺は各図に示している。
　断面位置は、「－」によってその位置を明記した。
6．写真図版の縮尺は不同である。
　遺物写真は、上野貞子が、遺構写真は調査担当者が撮影したものである。
7．執筆者は、目次に示した通りである。編集は信田がおこなった。

目　　次

カラー図版
序文
例言・凡例・目次
1．調査の経緯と経過 ……（森屋）…… 1
2．位置と環境 ……（森屋）…… 2
3．調査の成果 ……（信田）…… 3
　1）地形と層序 …… 3
　2）遺構と遺物 …… 3
4．まとめ ……（信田）…… 8

挿　図　目　次

図1　遺跡の位置
図2　全体平面図
図3　土層断面図
図4　建物1・ピット列1　平面・断面図
図5　焼土坑1　平面・断面図

写真図版目次

図版1　全景
図版2　建物1・ピット列1
図版3　建物1・ピット列1　断面
図版4　出土遺物

１．調査の経緯と経過

豊川遺跡は、大阪府茨木市豊川４丁目に所在し、都市計画道路道祖本摂津北線建設予定に伴う発掘調査である。

本調査地は、国道171号線の南側で、西国街道の直ぐ南側の段丘崖上に立地している。

当遺跡の北側には、沖積地を挟んで勝尾寺川の南側に、宿久庄西遺跡および庄田遺跡が河岸段丘上に位置し、勝尾寺川のさらに北側には粟生間谷遺跡が丘陵上の南斜面に所在している。

これらの遺跡は、いずれも、奈良・平安時代から中世にかけての掘立柱建物などが検出され、集落跡を形成している。同様な遺構を検出した当遺跡との関連が想定される。

平成14年度に、大阪府教育委員会により、道路建設に先駆けて、路線内の試掘調査が実施され、当域から焼土坑などが検出されたことにより、「豊川遺跡」と周知された。

それを受けて、当センターにより本調査を実施した。

図１　遺跡の位置（1：25,000）

2．位置と環境

豊川遺跡は、大阪北部の茨木市に所在する。遺跡は北摂山地の南端の丘陵地に立地する。周辺は勝尾寺川によって開析されており、今回の調査地は勝尾寺川に面する段丘上にあたる。調査区の北端は、崖に面しており、崖下には、西国街道が東西に走っている。

遺跡が所在する律令下の嶋下郡域を中心に歴史的環境について若干触れてみたい。

周辺における最古の人類の活動は、後期旧石器時代に遡る。津之江南・郡家今城遺跡や粟生間谷遺跡では、礫群を含む石器製作跡が検出されている。また、庄田・奥・宮の原・西ノ口・芝・稲・太田・耳原・安威・郡遺跡等では表面採集や構成の遺物包含層からナイフ形石器・有舌尖頭器が出土している。

縄文海進により三島平野の大部分が海底下になり、縄文時代の遺跡は少ないが晩期では増加する。代表的な遺跡としては、晩期の甕棺16基が検出された耳原遺跡、井堰・水田が検出された牟礼遺跡が挙げられる。山麓部では、西福井・太田・粟生間谷・徳大寺遺跡などで、後・晩期の縄文土器が出土している。

弥生時代前期になると安満・東奈良・目垣・耳原・郡遺跡などが形成される。特に、東奈良遺跡は、安満遺跡と同じく北摂地域における代表的な拠点集落であり、鋳型の出土から銅鐸を始めとする青銅器生産を担っていたことが判明している。中期および後期になると、安威川・佐保川・勝尾寺川の両岸、丘陵部、山間部などに新たに集落が形成され、遺跡数の急増が認められ、天神山・見付山・太田・溝咋遺跡や高地性集落である石堂ヶ丘遺跡などがある。また、拠点集落である東奈良遺跡の周辺には中条小学校遺跡が、郡遺跡の周辺には中河原・倍賀・春日遺跡など小規模な集落が形成される。

当地域では、古墳時代に、約350基もの古墳が築造される。これらは、水系ごとに幾つかのグループにまとめられることから、造営主体の違いに由来すると考えられている。前期古墳は山麓部に営まれ、弁天山古墳群・安満宮山古墳・将軍山古墳・紫金山古墳・安威０、１号墳などがある。中期には、墓谷古墳群・尼ヶ谷古墳群や石山古墳・土保山古墳・番山古墳などの土室の古墳群などが築造される。

土室の南東部に三島地域最大の規模を有する太田茶臼山古墳、また、後期に真の継体天皇陵と考えられている今城塚古墳が築造される。なお、埴輪窯跡である新池遺跡では、両古墳に埴輪を供給していたことが判明している。後期には、横穴式石室を主体とする古墳が造られ、導入期の古墳として青松塚古墳が挙げられる。平野部では、南塚古墳・海北塚古墳・耳原古墳、横穴式木室を主体とする上寺山古墳が築造される。山麓部には、塚原古墳群・塚脇古墳群・塚穴古墳群・慈願寺古墳群・梶原古墳群・新屋古墳群・安威古墳群・将軍山古墳群・長ヶ淵古墳群・福井北古墳群・真龍寺古墳群などの群集墳が形成される。その後、終末期古墳としては、初田１・２号墳、中臣鎌足の墓の可能性を指摘されている阿武山古墳、栗栖山南古墳群などが挙げられる。

古代には律令が施行され、高槻市が嶋上郡、箕面市東部・茨木市・吹田市・摂津市が嶋下郡に相当する。嶋上郡の郡衙としては、郡家川西遺跡が確認されている。嶋下郡の郡衙は、郡遺跡あたりが想定されているが、確定されていない。この地域は、穂積氏、中臣氏である中臣太田連・中臣藍連・三宅氏などの有力氏族の本拠地だと考えられている。穂積廃寺・太田廃寺・三宅廃寺などの寺院が建立されているが、先の有力氏族との関係が言われている。岡本山古墓群では奈良・平安時代の火葬墓、木棺墓が、栗栖山南墳墓群では同時期の火葬墓が検出されている。平安時代には、勝尾寺・任頂寺・総持寺が建立されている。

中世になると、摂関家領およびその氏寺・氏神である興福寺領・春日社領の荘園が多く経営され、福井庄・安井庄・沢良宜庄・新屋庄・溝杭庄・垂水牧などがあった。摂関家領以外では、仁和寺領任頂寺辺五ヶ庄・造酒司領太田保・長講堂領溝杭庄・総持寺領寺辺領・中宮式領宿久庄などがある。仁和寺領任頂寺五ヶ庄は、任頂寺を中心に大門寺・大岩・佐保・泉原・銭原・音羽などを含む茨木市北部にある。

中世の集落としては、宮田・郡・総持寺・玉櫛・粟生間谷遺跡などが挙げられる。中世墓としては高槻市の岡本山小墓群が挙げられ、鎌倉時代土壙墓・火葬墓400基および火葬場、室町時代の石組みを有する火葬墓等が検出されている。同様に茨木市の栗栖山南墳墓群でも、13世紀から16世紀にかけての五輪塔や石仏を中心に据えた石組みを上部構造にもち、下部構造が火葬墓ないしは土葬墓が600基余と火葬場７基を検出している。また、箕面市小畑遺跡では、13世紀後半から15世紀の石組みを有する主に火葬墓が201基検出されている。当地域は、石造品が多く残されている所でもあり、佐保・八坂神社などの石槽や、忍頂寺の五輪塔等が挙げられる。中世末期には、戦乱が相次ぎ、三島地域にも多くの城が築かれる。山間部では芥川山城・泉原城・佐保城・栗栖山砦・福井城･安威城、平野部には今城山城・高槻城・太田城・普門寺城・茨木城などが挙げられる。芥川山城では、細川春元、三好長慶、織田信長といった名が記載されている文献資料があり、非常に重要な城であったと考えられている。また、高槻城は、キリシタン大名の高山右近が城主であったこともあり、29基のキリシタンが埋葬されたと思われる木棺墓も検出されている。

近世では、千提寺キリシタン遺跡や下音羽などで、キリシタン墓碑などのキリシタン関係の遺物が発見されている。

３．調査の成果

１）地形と層序

基本層序は、現代表土層〈第１層〉、旧作土・床土・盛土層〈第２層〉、細砂層〈第３層〉、包含層〈第４層〉である。

調査地の現況は非常に平坦な地形であったが、検出した旧地形は北端の崖に向かって低くなっていた。特に北東部分では傾斜が急になっており、本来の段丘崖の上部にあたると思われる。

細砂層〈第３層〉は、調査区全域にみられるが、北端部では１m以上の厚さを有し、この層の堆積によって崖際までが平坦化している。包含層は、南部では部分的に遺存しているのみであった。

遺物については後述するが、盛土層〈第２層〉以上は、近世以降ものと思われる。細砂層〈第３層〉からは、中世後期を中心とした遺物が出土している。

２）遺構と遺物

南半の段丘上において、ピット群、焼土坑などを検出した。ピット群から、建物１、柱列１を復元した。

建物１

段丘上に立地する。南北３間×東西２間、約6.1m×3.6m、約22.0㎡の総柱建物である。東側の調査地外に続いている可能性がある。柱間は、南北で約1.9～2.2m、東西で約1.6～2.0mである。ピットには、柱痕が認められるものもあるが、少数である。ピット８は、焼土坑１と切り合い関係にあるが、前後関

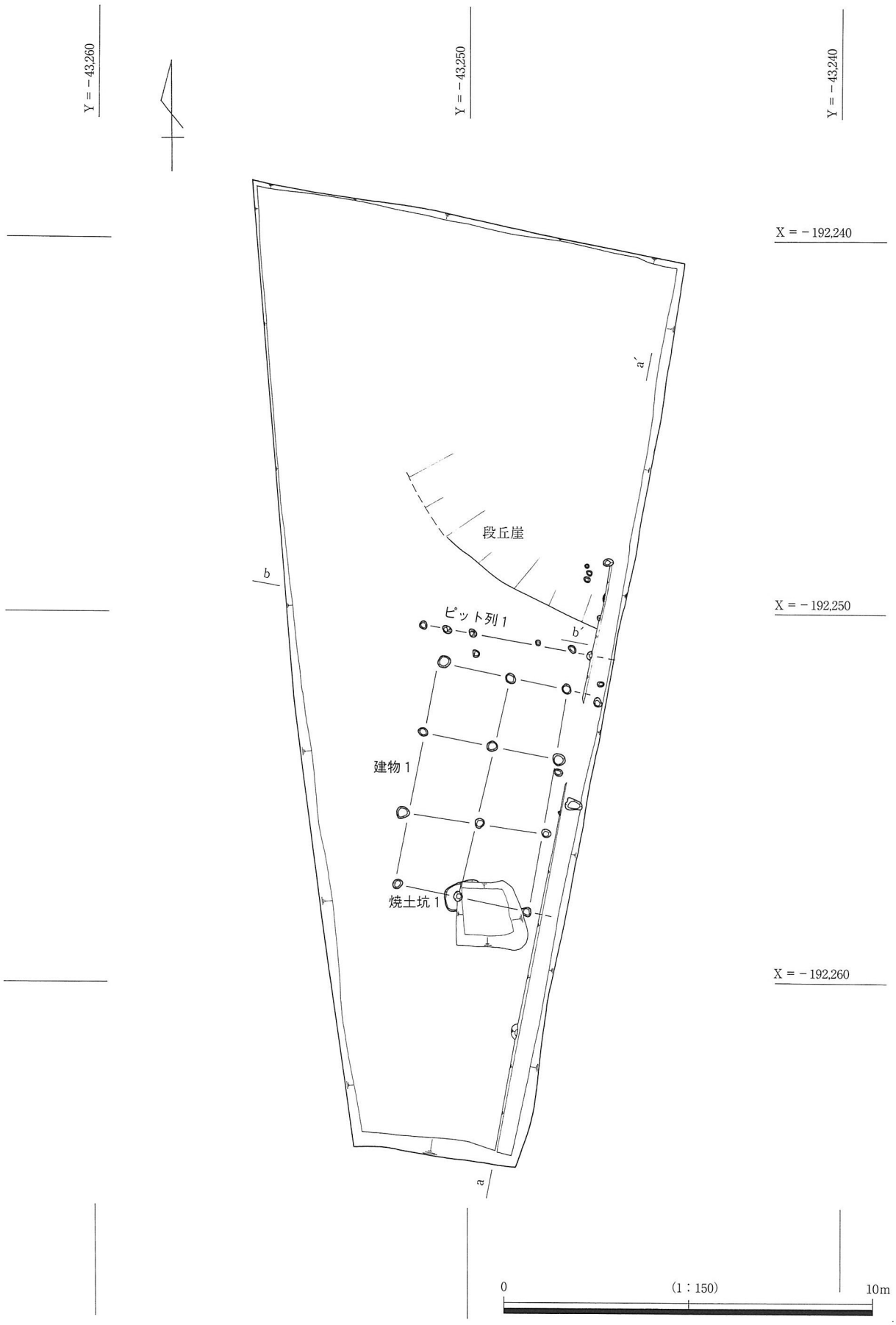
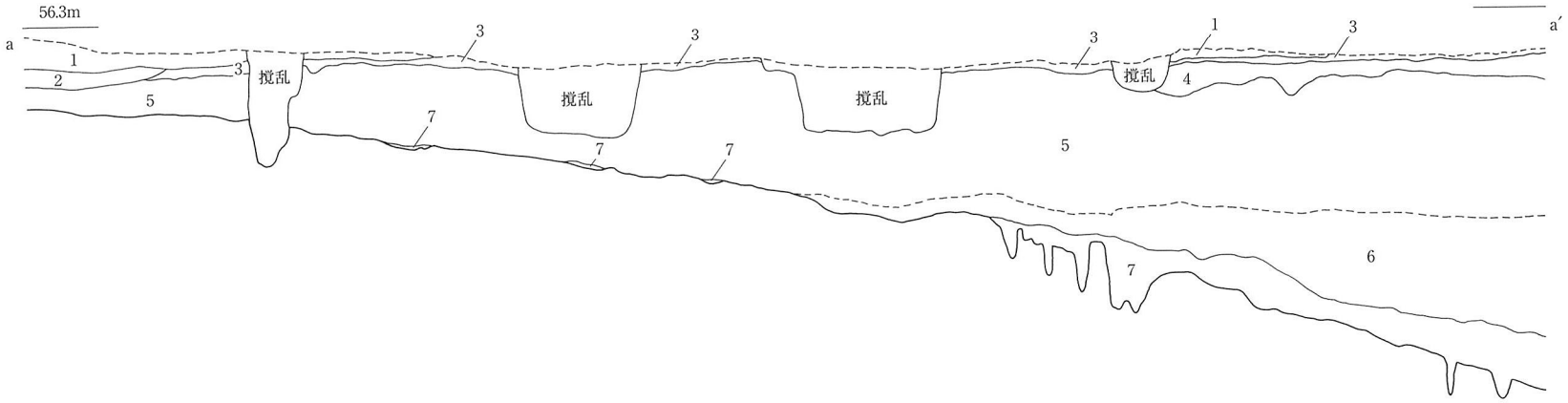
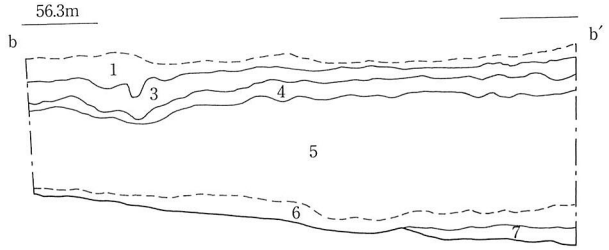

Y = − 43,260
Y = − 43,250
Y = − 43,240
X = − 192,240
X = − 192,250
X = − 192,260
段丘崖
ピット列 1
建物 1
焼土坑 1
a
a′
b
b′
0
(1：150)
10m

図 2　全体平面図





1．2.5Y4/1 黄灰　細砂　小礫少し含む　作土層
2．2.5Y6/3 にぶい黄　細砂～粗砂　小礫少し含む　作土層か
3．7.5YR6/6 橙　細砂　小礫少し含む　床土
4．10YR6/6 明黄褐　シルト～細砂　粗砂・小礫少し含む　旧作土に伴う盛土層
5．10YR6/4 にぶい黄橙　細砂　小礫少し含む
6．10YR5/3 にぶい黄褐　細砂　小礫少し含む　5よりもシルト質がやや強い
7．7.5YR4/4 褐　シルト　小礫少し含む　包含層

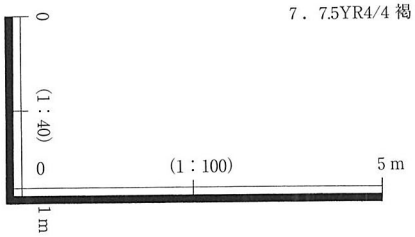


図3　土層断面図

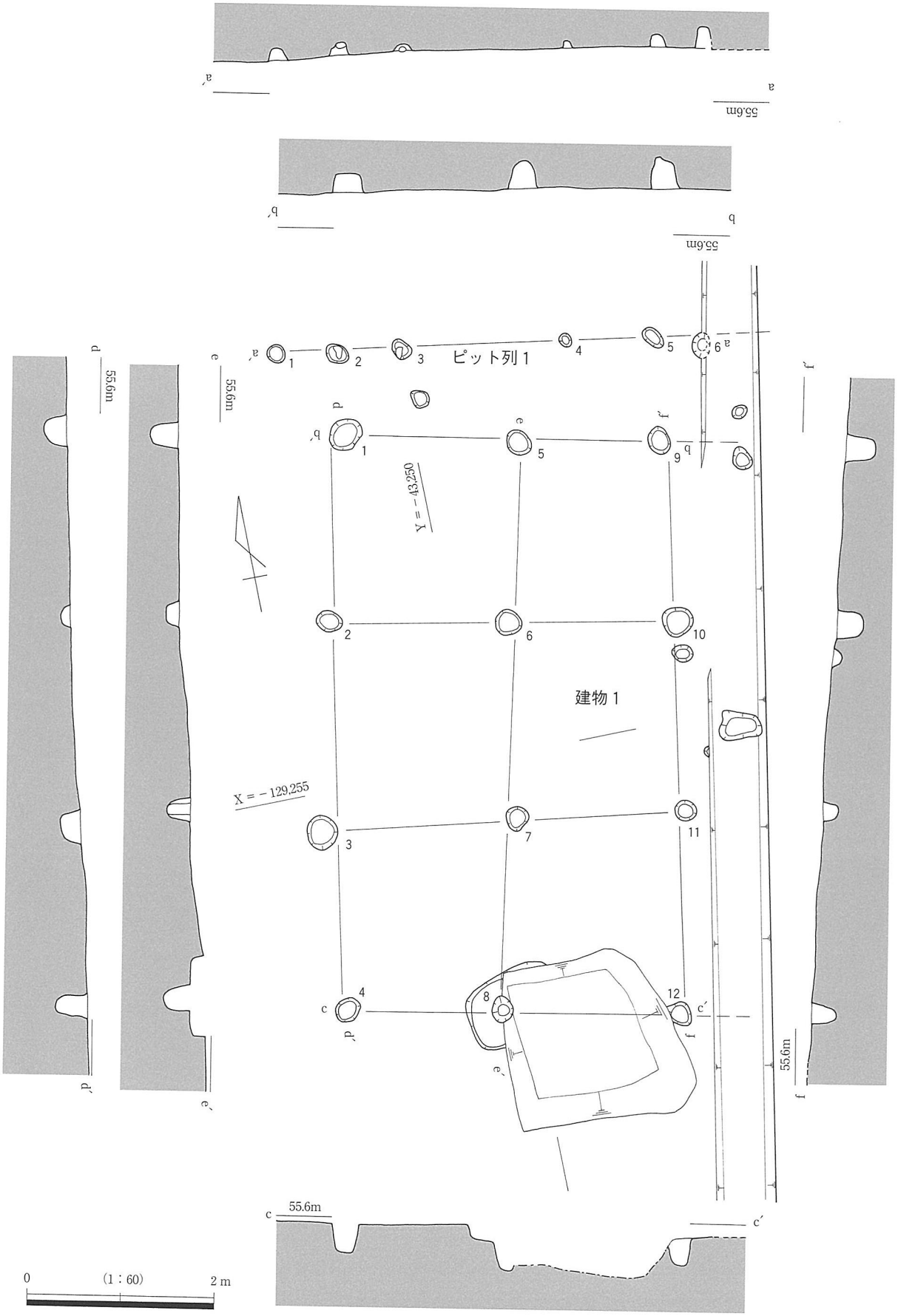


図4　建物1・ピット列1　平面・断面図

係は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯蓋、土師器などの細片が少量出土した。

ピット列１

段丘崖際に立地する。東西約4.6mで、柱間は不規則である。東側の調査地外へ続いている可能性がある。ピット２・３には埋土に礫が含まれていた。

建物１と方向軸が同じで、建物の北約0.6～0.8mに位置する。

遺物は出土していない。

焼土坑１

段丘上に立地する。長方形で、東西約1.0m、南北約0.7m、深さ0.15mである。壁が被熱して焼土化している。底面では被熱痕跡は顕著ではない。焼土化した壁を断ち割ったところ、土坑を掘削した後にシルトが貼られていることが確認できた。

建物１のピット８と切り合い関係にある。

遺物は出土していない。

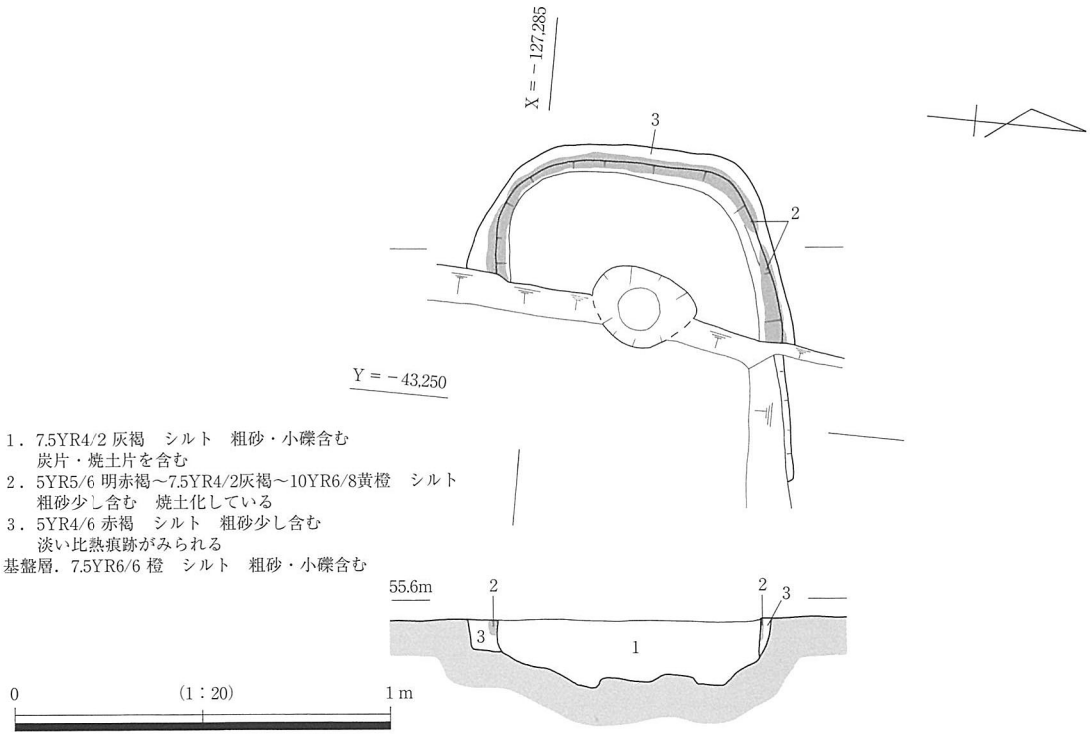


図５　焼土坑１　平面・断面図

層出土遺物

各層から出土した遺物も、遺構出土遺物同様、図化不可能な細片のみである。

第１～２層からは、染付片などが出土している。

第３層からは、土師器皿、須恵器杯蓋、瓦質土器、備前焼擂鉢、白磁皿、青磁碗、平瓦などが出土している。中世後期を中心とした時期のものである。

第４層からは、土師器、須恵器甕片などが出土した。古代から中世にかけてのものと思われる。

図版１に掲載した遺物の詳細を記しておく。１～３は第３～４層出土の須恵器杯蓋、４は第３層出土の須恵器杯蓋である。５は第３～４層出土の須恵器、６は第３～４層出土の須恵器鉢である。７は第４層出土の須恵器甕、８は第３層出土の瓦質土器である。９・10は第３層出土の瀬戸焼、11は第３層出土の備前焼擂鉢である。12は第３層出土の白磁皿、13は第３層出土の青磁碗、14は側溝出土の青磁である。15は第１～２層出土の染付碗、16は第３層出土の平瓦である。

４．まとめ

建物１、ピット列１は、位置関係から同時期に存在した可能性がある。ピット列は段丘崖際に立地し、建物に付属する柵などであったと想定される。焼土坑は、これらの遺構とは切り合い関係を有し、時期を違える。

豊川遺跡は、新たに確認された遺跡である。各遺構の詳細な時期は明らかにし得なかったが、古代から中世の集落遺跡であると思われる。

北西には、宿久庄西遺跡、庄田遺跡、粟生間谷遺跡がある。豊川遺跡と同様な段丘上に、古代から中世にかけての集落が広域に展開している。これらの遺跡にも、今回検出した建物、焼土坑と同様な遺構が多数みられる。

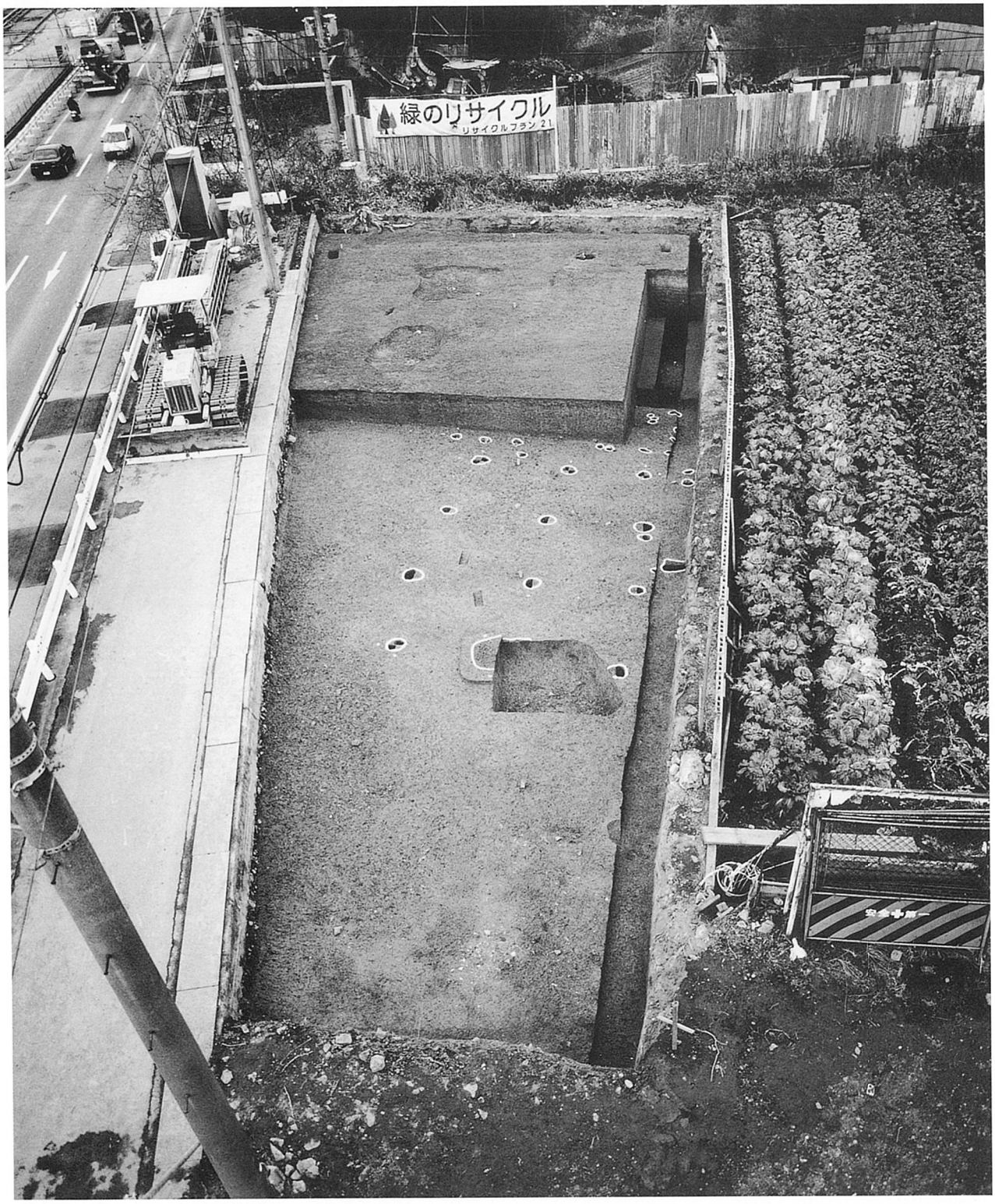
山陽道沿いの丘陵地が、古代から中世にかけて開発されていく過程を考える上で、重要な資料を得た。

参考文献

財団法人　大阪府文化財調査研究センター『庄田遺跡』　1999

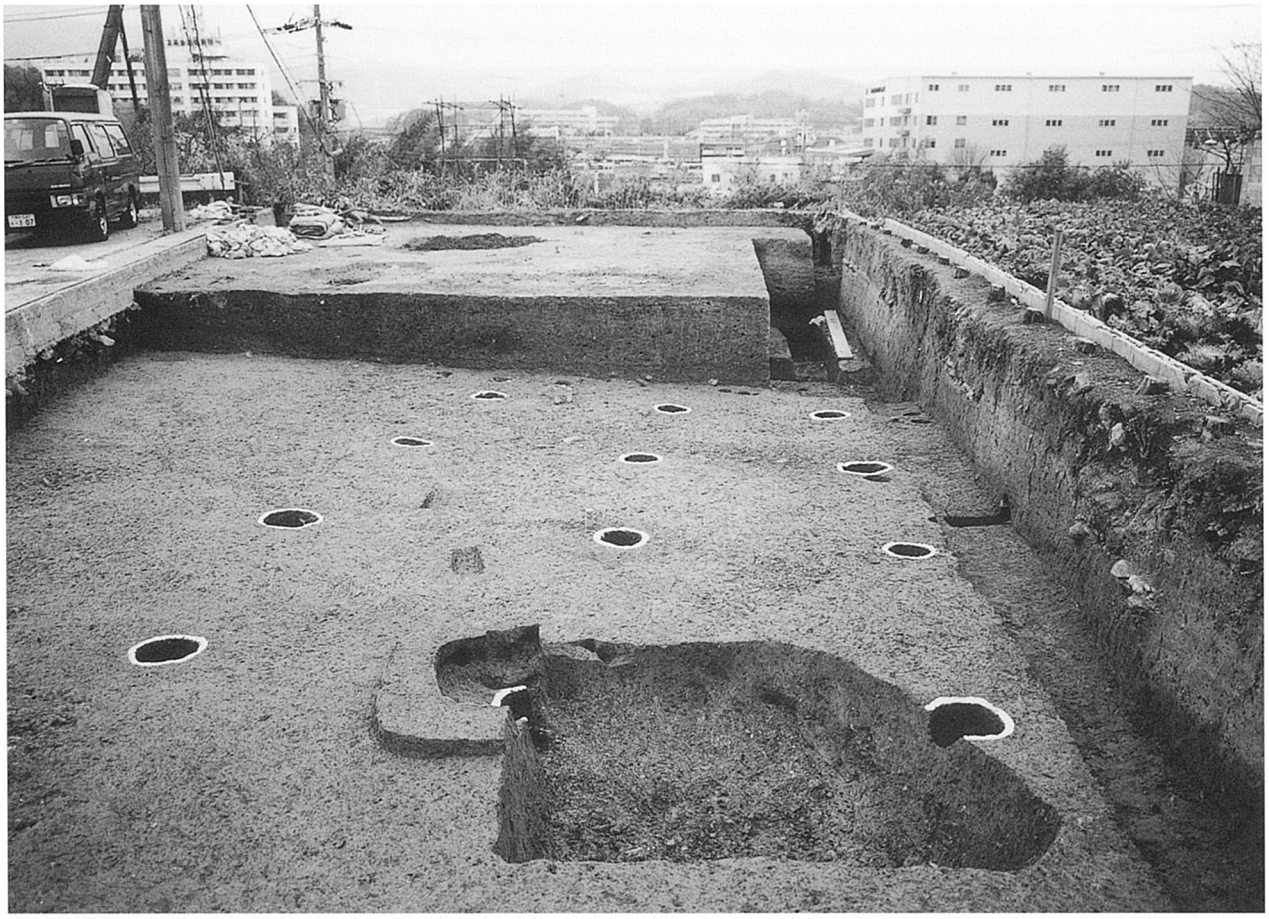
財団法人　大阪府文化財センター『宿久庄西遺跡』　2002

財団法人　大阪府文化財センター『粟生間谷遺跡』　2003



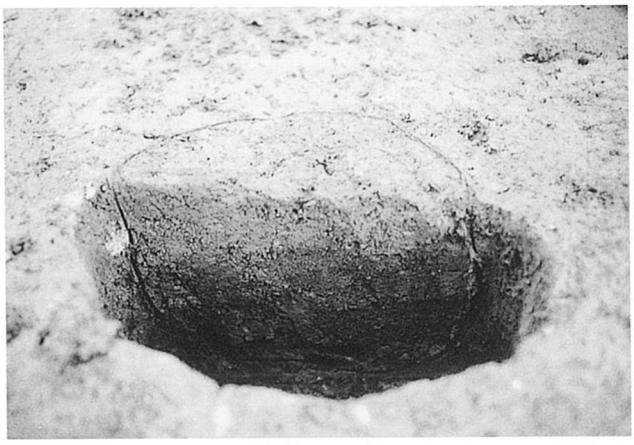
全景　　南から

図版 2



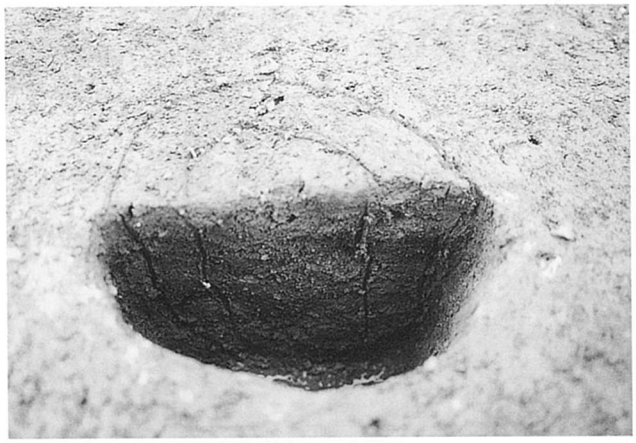
建物 1　　南から

柱列 1　　南東から

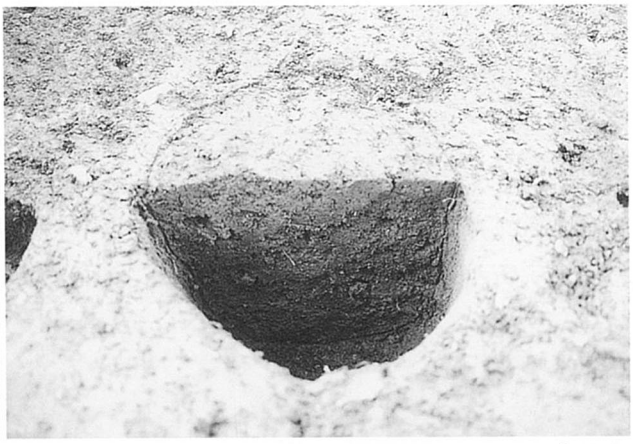


建物１－３　　西から

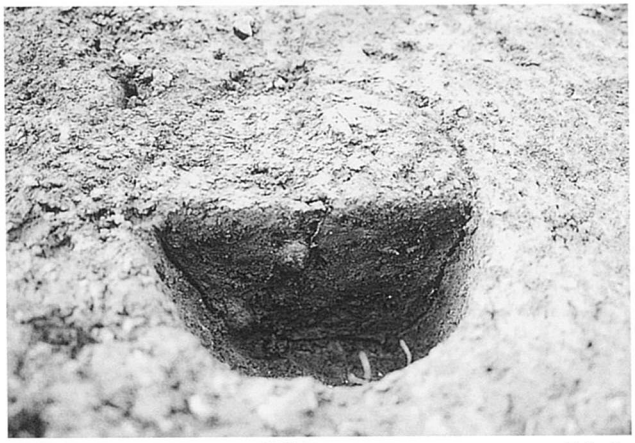
建物１－６　　西から



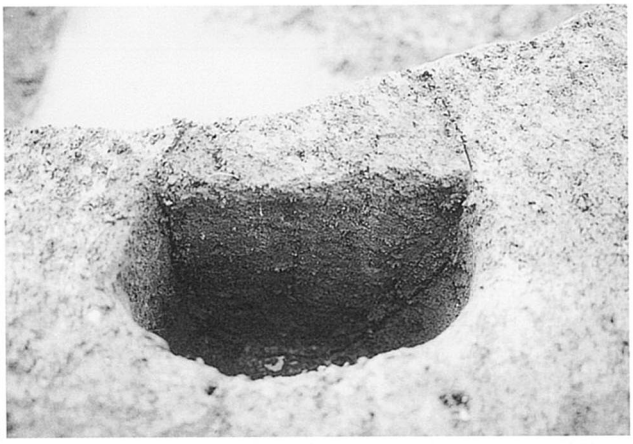
建物１－７　　西から



建物１－10　　東から



建物１－11　　東から

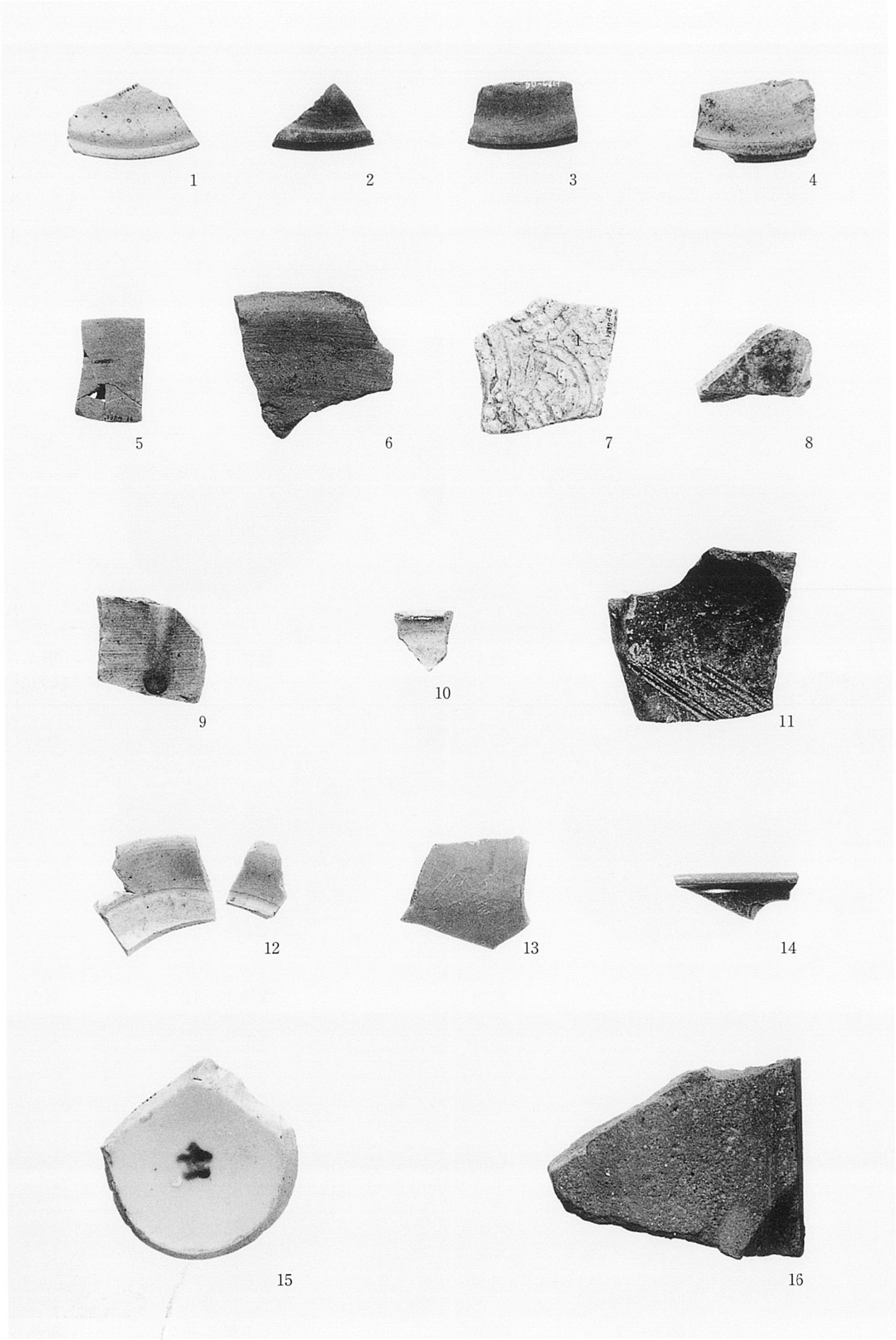


建物１－12　　東から

ピット列１－１　　南から

ピット列１－２　　南から

図版 4



出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	とよかわいせき
書名	豊川遺跡
副書名	都市計画道路道祖本摂津北線建設事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	財団法人大阪府文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第89集
編著者名	信田真美世・森屋美佐子
編集機関	財団法人大阪府文化財センター
所在地	〒590-0105　大阪府堺市竹城台3丁21番4号　TEL072-299-8791
発行年月日	2003年2月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		緯度・経度	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号				
豊川遺跡（とよかわいせき）	大阪府茨木市（おおさかふいばらきし） 豊川4丁目（とよかわよんちょうめ）	27211	―	北緯 34°50′16″ 東経 135°31′80″	2002.11.13 ～ 2002.12.25	204	都市計画道路道祖本摂津北線建設事業に伴う

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
豊川遺跡	集落	古代～中世	掘立柱建物・焼土坑	土師器・須恵器・青磁	

(財)大阪府文化財センター発掘調査報告書　第89集

豊　川　遺　跡

—都市計画道路道祖本摂津北線建設事業に伴う発掘調査報告書—

2003年２月　発行

編集発行／財団法人　大阪府文化財センター
〒590-0105　堺市竹城台３丁21番４号　Tel　072-299-8791
印刷／株式会社　中島弘文堂印刷所
〒537-0002　大阪市東成区深江南２丁目６番８号